

公益社団法人東京都盲人福祉協会提出の平成 27 年 7 月 2 日付け、東京都知事宛
要望書より抜粋

(中略)

情報バリアの解消について

本会では機会あるごとに視覚障害者の情報バリアフリーについて訴えてきた。
例えば、東京都障害者施策推進協議会や福祉のまちづくり推進協議会など。
そうした中で平成 27 年には情報バリアフリーの方法についても具体的な提案を
行ってきた。

情報バリアの解消は、視覚障害者の「知る権利」を保障するものであり
「共生社会」実現のための第一歩である。

視覚障害者の情報のバリアフリーを実現するためには、1. 点字化、2. 音声
化（デイジー及びカセットテープ）、3. 弱視者向けの大活字がある。
ただ問題は、会議の場で配布されても資料が膨大な場合は担当者の説明を聴き
ながら資料を読みこなしたり、録音物を聴くことは極めて困難であり、何らか
の形で事前配布がなされる必要がある。また活字の資料に音声コードが付され
ているが聴き取り装置を持ち込む必要があり、パンフレット程度のものであれ
ばまだしも、冊子になっているものは聴き取りが困難であり実用的ではない。
現に一方的に厚さ 5 センチの冊子に音声コードが付けられたものが無用の長物
になってしまった事例もある。このような場合は事前に当事者と協議する必要
がある。

現在東京都から視覚障害者向けに発行されているものは 1. 広報東京都点字版・
音声版（デイジー及びカセットテープ）2. 東京都刊行物 年 12 回（点字版・
カセットテープ版）の 2 点に過ぎず、刊行物も頁数の制限があるため抜粋でし
か作製できないのが実情である。これからは 50 時間連続で録音できるデイジー
が視覚障害者向け情報提供の最良の方法となることが考えられることから、事
前に当事者と十分協議の上、具体策を講じるべきである。

* 参照

デイジーとは、DAISY(Digital Accessible Information System)という
規格を用いたデジタル録音のこと。50 時間程度なら可能という長時間
録音が特徴で、一般に CD あるいは SD カードを録音媒体とする。その
他の特徴を活かし CD 図書として応用すると、見出しから検索して読みたい
部分を読んだり、読み飛ばしたり、一般の本のような読み方ができる。
こうした特徴から同図書は現在、視覚障害者に広く利用されている。